Golden Star

取扱説明書

LAWN MOWER

エンジン **芝刈機**

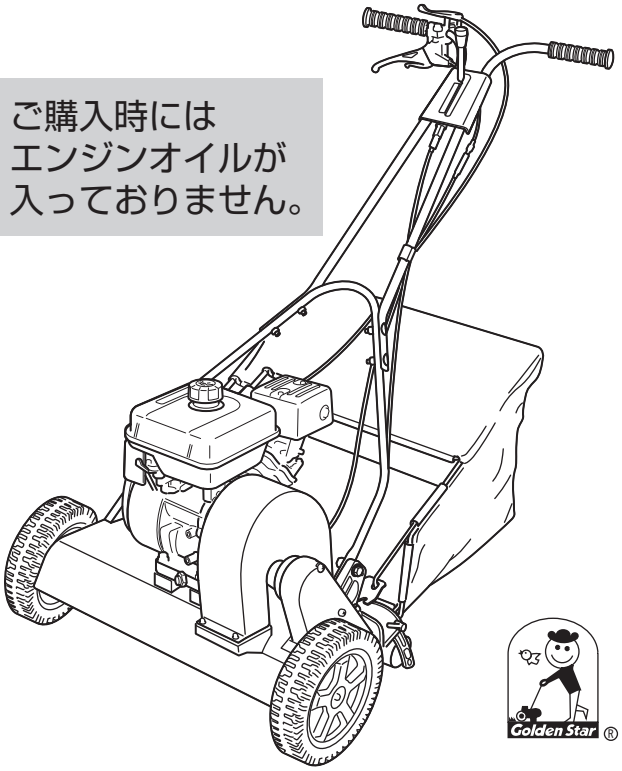
グランモアー

GNP-5000H&L

このたびは、ゴールデンスター／グランモアーをご購入いただき、誠にありがとうございます。

本書は運転操作および保守上の重要な項目について説明したものです。ご使用前に必ずお読みいただき、正しくご使用いただくとともに、お使いになる方がいつでもご覧いただけるように大切に保管してください。

ご購入時には
エンジンオイルが
入っておりません。



— 頑丈・安心・日本製 —

目　次

安全にお使いいただくために ……2
各部の名称と仕様……6
芝刈機の取扱い ……9
1. エンジン始動までの準備……9
1-1. ハンドルを本体へ取付ける ……9
1-2. グラスキャッチャー（集草器）を組立てる ……10
1-3. 刈高さ（刈った後の芝生の長さ）を設定する ……11
1-4. 燃料とエンジンオイルの点検・給油と各部の締付け点検をする ……14
1-5. グラスキャッチャーを取付ける ……15
2. 芝刈作業……16
2-1. エンジンを始動する ……16
2-2. 芝刈りの操作・停止のしかた……18
2-3. 芝刈開始 ……19
2-4. エンジンを停止する ……21
2-5. 芝刈作業後は ……21
お手入れ方法と保管方法 ……22
1. お手入れ……22
1-1. エンジンオイルの交換 ……23
1-2. エアクリーナの点検・清掃 ……24
1-3. V ベルト・チェーンの点検・注油・交換……25
1-4. 点火プラグの清掃 ……27
1-5. 燃料タップの整備 ……28
1-6. 芝刈機のお手入れ ……28
2. 長期保管について……29
2-1. 長期保管のためのお手入れ方法 ……29
トラブルシューティング ……31
1. 各種調整方法について……32
1-1. 回転刃と受刃の調整 ……32
1-2. クラッチケーブルの調整 ……33
1-3. 自走ケーブルの調整 ……34

安全にお使いいただくために

ここに示した注意事項は製品を安全にお使いいただき、お客様への危害や損害を未然に防止するために重要な内容ですので、必ずお守りください。

■ 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。

⚠ 危険
死亡または重大な傷害を受ける事故が発生する内容です。 禁止事項は絶対にやめてください。

⚠ 警告
死亡または重大な傷害を受ける事故が発生するおそれがある内容です。 禁止事項は絶対にやめてください。

⚠ 注意
軽傷または中程度の傷害を受け、財物の損壊等につながる事故が発生するおそれがある内容です。充分にご注意ください。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

禁止	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。 行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。
必ず守る	この絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。 行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。
注意	この絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。 行為の内容によって、文字や図記号と組み合わせて表示しています。

取扱説明書について

- この取扱説明書は本機を操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- 本機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒に取扱説明書もお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買い上げいただいた販売店に連絡してください。

⚠ 危険

よく読む

使用の前に取扱説明書をよく読む

- 芝刈機を使用する場合は、取扱の方法、作業の仕方等を習得してから慎重に芝刈作業をしてください。

禁止

芝刈作業以外には使用しない

- 本機は芝生を刈るために設計･製造されていますので、芝刈作業以外には使用しないでください。目的以外で使用されますと、ケガや事故の原因になります。また本機の寿命を縮めます。

刃部に手足等、身体を近づけない

- 芝刈作業中に回転部や受刃部等に、手や足等で触れないでください。ケガの原因になります。

傾斜面等、不安定な場所での作業及び放置はしない

- 傾斜地で作業（使用）をすると、本機がバランスを保つことができず転倒し事故が発生する恐れがあります。

子供や操作方法が理解出来ない方は使用しない

- 本機の操作方法をご存知ない方、または理解できない方には操作させないでください。
- 本機に子供や物品を乗せたり、子供に操作をさせないでください。
- 未成年の方による操作は、保護者の監督下でない限りおやめください。

こんなときには使用しない

- 夜間及び天候の悪い時は使用しないでください。
- 疲れている場合は使用しないでください。もし、機械使用中に疲れた場合は、作業を中断し休憩してください。
- グラスキャッチャー、駆動カバー類を外した状態では危険ですので、使用しないでください。

雨天のときは芝刈り作業をしない

- 芝生が濡れていると転倒によるケガ等の恐れが有り危険ですので、芝刈作業はしないでください。

安全にお使いいただくために

⚠ 警告

点検・確認

使用の前に各部の点検・調整及び組立方法を確認する

- 正常でない機械を使用するとケガや故障の原因になりますので、各部の点検・調整及び組立方法を確認してください。
- 各部のネジに緩みがないか、各部品に損傷がないか、正常に動作するか充分点検してください。
- 本機の組立および刃調整を適切に行ってください。

必ず守る

使用前に芝生内の障害物を必ず取除く

- 小石、木片、金属片等がありますと、刃先等を傷めたり故障の原因及び、障害物の飛散によるケガの原因となりますので取除いてください。

次の場合は、エンジン回転を停止させ、点火プラグキャップを点火プラグより外し、刃物が停止してから行うこと

- 各部の組立、点検、整備、調整
- 回転刃に石・木片などの異物が噛み込んで異常を感じた時
  (直ちに使用を中止し、異物を取除き、回転刃、受刃等、本機に異常がないかを点検し、異常があれば修理してください)
- キャッチャーの脱着時
- 燃料給油時(エンジンが冷えてから行ってください)

換気の悪い室内ではエンジンを運転しない

- 有害な排気ガスによって中毒の恐れがあります。

作業中、本機から離れる場合は必ずエンジンを停止する

- エンジンがかかった状態で放置すると事故を起こす恐れがあります。

子供やペットを近づけない

- 芝刈作業時に飛散物によりケガをする恐れが有りますので、作業者以外は作業場に近づけないでください。

作業に適した服装で作業する

- 操作時は常に安全面に配慮し、長袖・長ズボン(袖・裾のダブつきのない)などの作業服を着用してください。
- 各部の点検、整備、調整及び芝刈作業時は、JIS 等の規格に合格した保安帽を着用するとともに革手袋、防塵メガネ・耳栓をつけ、足下の保護のため安全靴を履いてください。

⚠ 注意

必ず守る

本機をぶつけたり、落下させたり強い衝撃を与えない

- 刃物や本体などに破損、亀裂、変形があるとケガや故障の原因となります。

本機の分解や改造をしない

- 機械の手入れに必要な部品は、安全確保のために純正部品を使用してください。
- 本機に異常を感じた時は直ちに作業を中止し、必ずお買い求めの販売店にお申し付けください。
- 取扱説明書の記載以外の分解修理及び改造は行わないでください。故障する恐れがあります。

濡れた芝生は刈らない

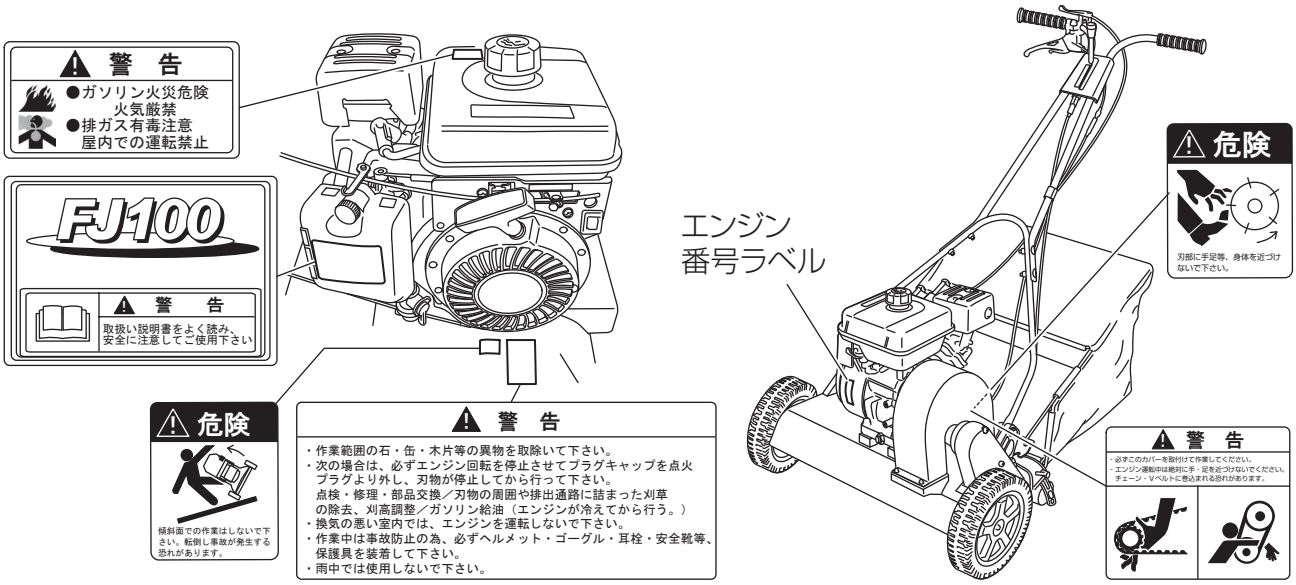
- 濡れた芝生を刈ると故障の原因になります。

使用後や収納保管時の注意点

- 使用後は必ず手入れをして、湿気の少ないところに保管してください。湿気の多いところではサビが発生して、刃が切れなくなり故障の原因となります。
- 使用後はお子様の手が届かない、鍵のかかる所に保管してください。

警告・注意ラベルの貼付位置

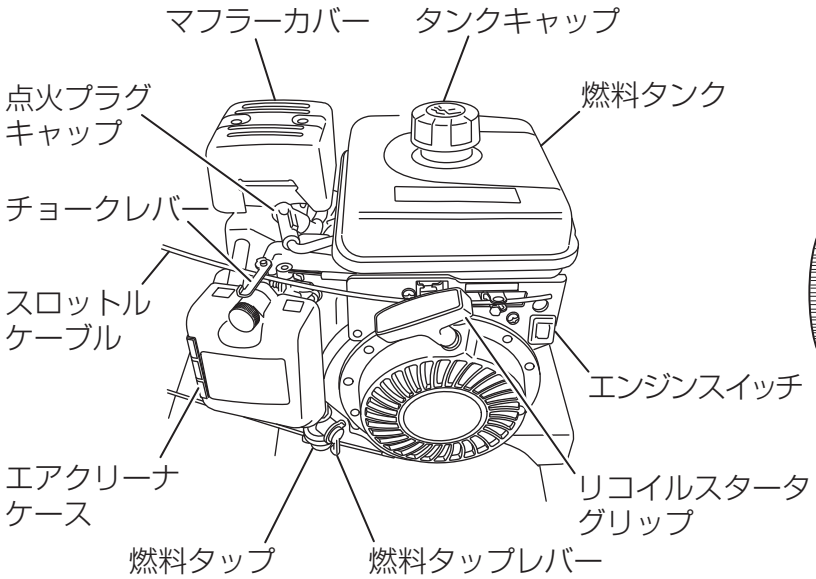
安全に使用していただくために、本機には警告・注意ラベルが貼ってありますので、よく読んでからご使用ください。なお、ラベルははっきりと見えるように、常にきれいにしておいてください。

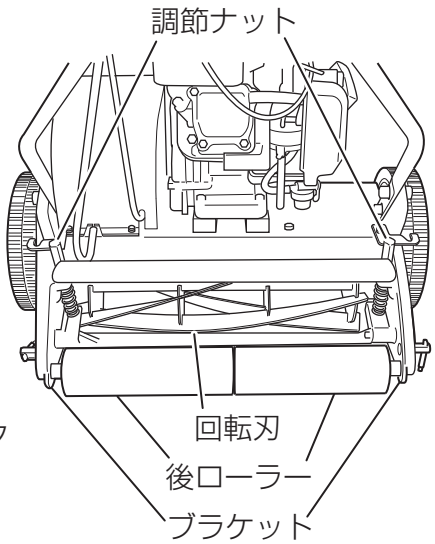


各部の名称と仕様

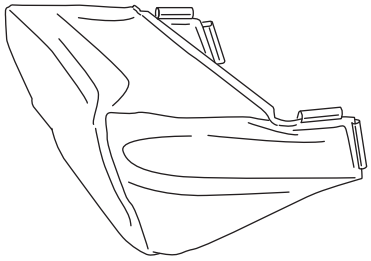
各部の名称

スロットルレバー
自走レバー
クラッチレバー
自走ケーブル
スロットルケーブル
クラッチケーブル
ハンドル(上)
マフラーカバー
グラスキャッチャー
タンクキャップ
オイルドレンプラグ
(反対側にも有)
ハンドル(下)
ベルトカバー
刈込み高さ調節ノブ
給油プラグ
チェーンケース
タイヤ

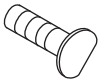




付属部品



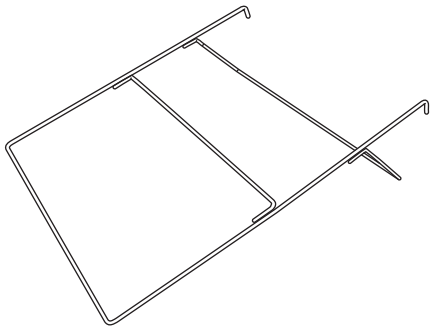
キャッチャーバック……1
(底板付)



ハンドルボルト
(M8) ……4

ワッシャー
(M8用) ……4

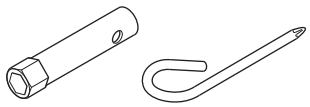
ナット……4
(M8)



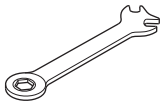
キャッチャーフレームセット……1

ケーブルクランプ
……1

スプリングワッシャー
(M8用) ……4



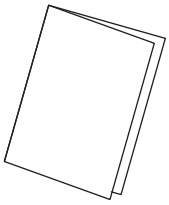
プラグレンチ……1



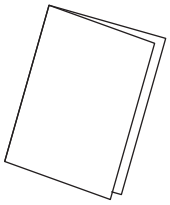
スパナ……1
8×10×13

スパナ……2
12×14

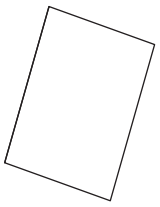
ツールキット



エンジン取扱説明書
……1



取扱説明書
……1



保証書
……1

必ず梱包品の確認を行ってください

⚠ 注意

必ず守る

- **開梱、組立作業は、けが防止のため必ず２人以上**で行い、作業者は安全靴・手袋を着用してください。

段ボール箱を開封し、梱包品が全て揃っているか確認してください。
※箱、梱包材は収納時や移送時に必要です。大切に保管してください。

各部の名称と仕様

仕　様

本機型式		GNP-5000H&L
エンジン	型　式	FJ100G
	形　式	4サイクル OHV 空冷横軸型ガソリンエンジン
総排気量 cm^3		99
最大出力※1 kW(PS)/rpm		1.9 (2.5) / 1800
燃　料		自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量 ℓ		1.6
エンジンオイル容量 ℓ		0.46
点火プラグ		NGK B6HS
刈　幅 mm		500
刈込み高さ※2 mm		約10 ～ 50
刈取能力 m^2/h		約980
メインクラッチ（回転刃）		ベルトテンション式
自走速度 km/h		約3.9
自走クラッチ		噛合いクラッチ式
装備寸法※3 mm		(L) 1170~1210 × (W) 740 × (H) 800~1050
乾燥質量 kg		約56

本仕様は改良のため、予告なく変更することがあります。

※1　出力軸回転数です。

※2　作業される芝生（地面）の条件によって異なります。

※3　“H” はハンドル高さを表します。

1. エンジン始動までの準備

⚠ 警告

必ず守る

- ケーブル類を、ハンドルで巻き込んだり、挟み込んだり、折ったりしないでください。本機の性能を充分発揮出来ないばかりか、緊急時に事故回避操作ができない場合があります。

⚠ 注意

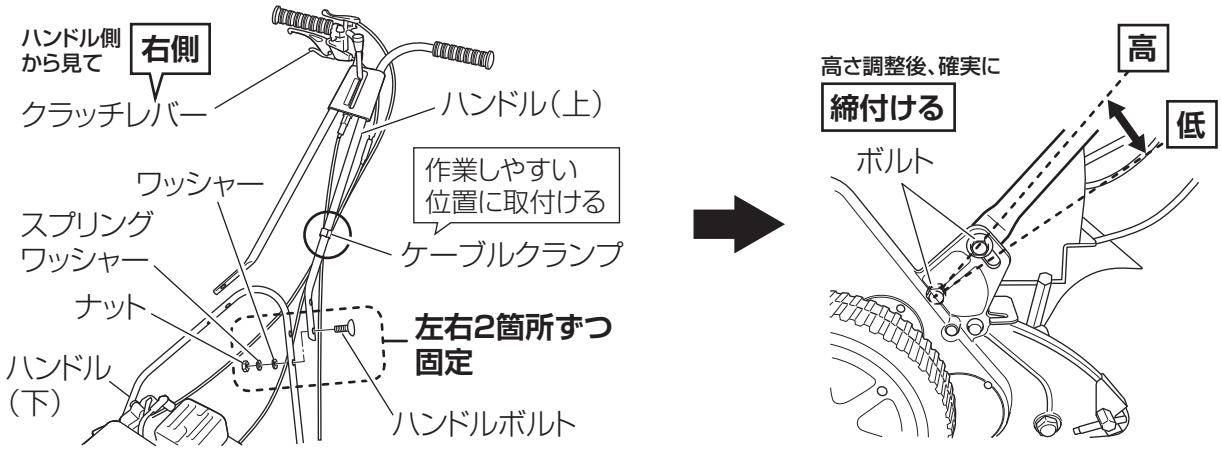
刃物注意

- 本機の組立てや各部の調整を行う場合は、ケガ防止の為に必ず革手袋を着用し、刃部に充分注意してください。

1-1. ハンドルを本体へ取付ける

クラッチレバーが（本機ハンドル側から見て）**右側**になるように、ハンドル（上）をハンドル（下）にボルト・ナット・スプリングワッシャー・ワッシャーで取付けた後、ハンドル（下）を本体に固定しているボルト（左右2箇所ずつ）をゆるめ、ハンドルの高さを作業に適した高さに調整します。

調整後は、ゆるめたボルトを確実に締付けてください。



ポイント
画像で詳しくご覧になれます。

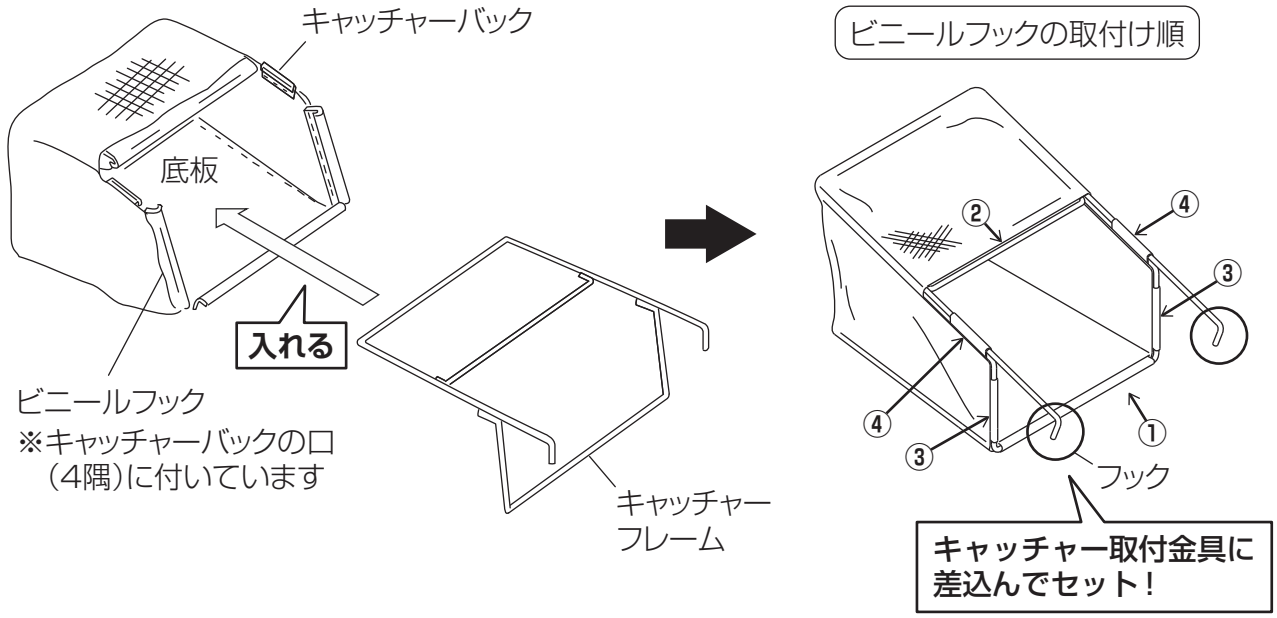
1-2. グラスキャッチャー（集草器）を組立てる

⚠ 注意

必ず守る

- キャッチャーバックをキャッチャーフレームに取付ける時、ビニールフックが堅いので、軍手や革手袋を必ず着用してください。ケガをする恐れがあります。

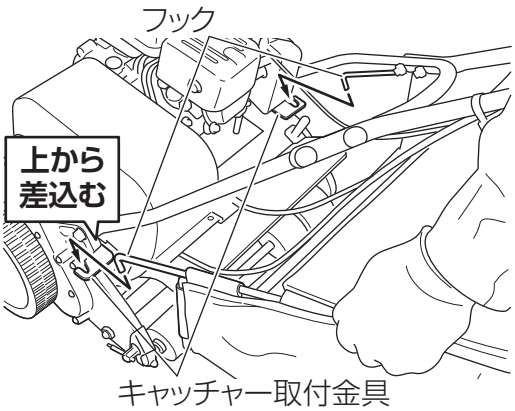
キャッチャーフレームをキャッチャーバックの中に入れ、ビニールフックを①②③④の順でフレームに取付けます。



ポイント

- 画像で詳しくご覧になれます。

- **グラスキャッチャー（集草器）は刈込作業に入る前に取付けてください。**
  なお本機にセットする時は、キャッチャーのフック部を本機のキャッチャー取付金具に上から差込んでください。

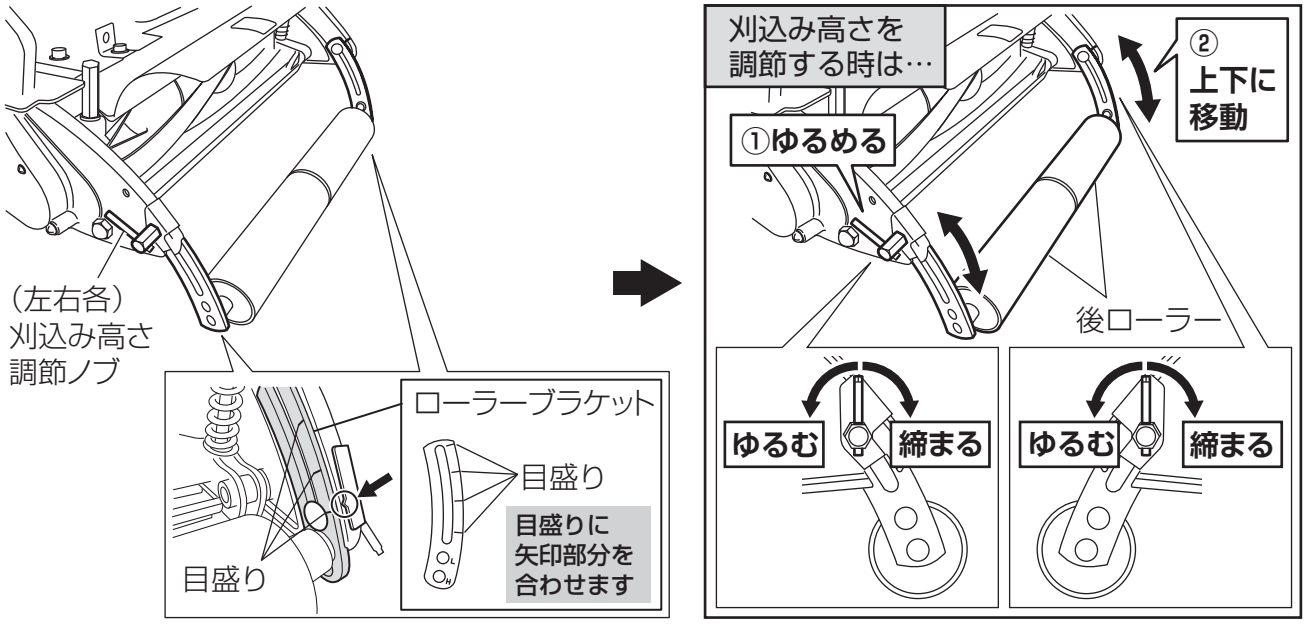


1-3. 刈高さ（刈った後の芝生の長さ）を設定する

⚠ 警告	
必ず守る	● 刈高さを設定する時は必ずエンジンスイッチを“O”（OFF）側にし、エンジンを停止させ回転刃の回転が止まった後に、点火プラグキャップを点火プラグより外してから行ってください。

⚠ 注意	
刃物注意	● 回転刃に手や指が触れるとケガをする恐れがあります。必ず革手袋を着用し、取扱いには充分注意してください。
必ず守る	● 刈高さ位置は必ず左右同じ位置に合せてください。左右を異なる位置に合わせると芝生が上手く刈れずに、芝生を傷める恐れがあります。

① 刈高さは刈込み高さ調節ノブをゆるめ、後ローラーの高さを上下させることで調節できます。刈込み高さ調節ノブは左右のローラーブラケットにあり、目安になる目盛りがあります。**左右が必ず同じ高さになるように、目盛りを矢印部分に合わせてください。**

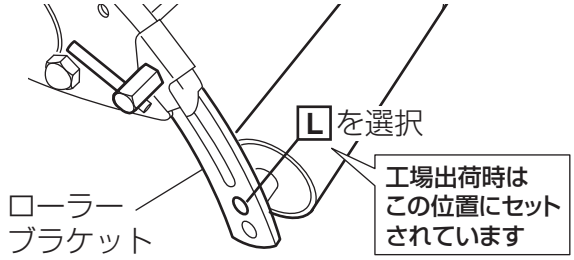
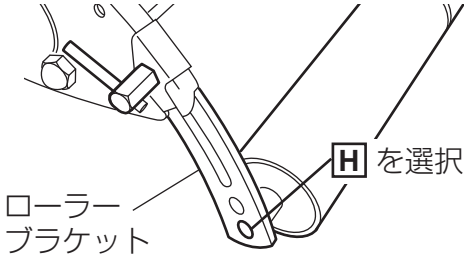


ポイント

- 画像で詳しくご覧になれます。
- 芝刈作業現場の条件によって、刈高さは多少変化する事があります。

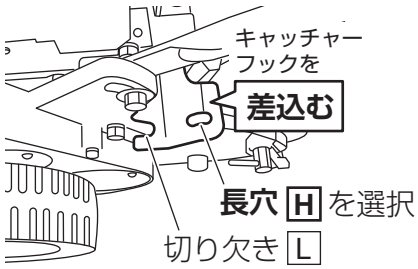
② 次に刈高さの設定に伴い、後ローラー軸とキャッチャー取付位置も設定します。

後ローラー軸の設定のしかた

刈高さが**40mm以下**で作業をする場合	刈高さが**50mm**で作業をする場合
	

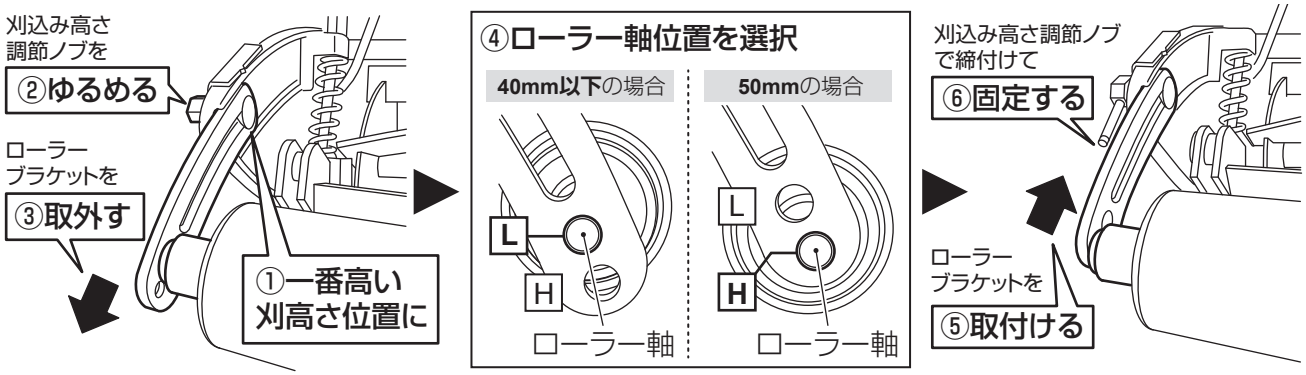
キャッチャー取付位置の設定のしかた

芝刈り作業状態によって、作業しやすい位置に設定してください。

刈高さが**40mm以上**で作業をする場合	刈高さが**30mm以下**で作業をする場合
	

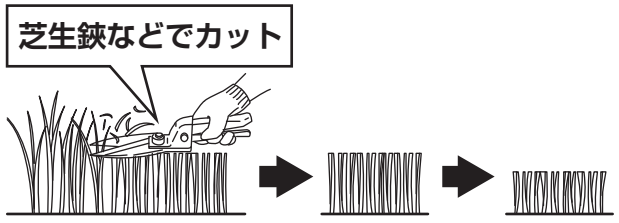
ローラー軸の位置移動のしかた

まず刈高さを一番高い位置（L の時は40mm、H の時は50mm）に調節し、一人がハンドルを持ち上げ、後ローラーを浮かした状態にし、もう一人が片側の刈込み高さ調節ノブをゆるめ、ローラーブラケットを取外します。
次にローラー軸を設定したいの穴（L·H）に差込み、ガードを取付け、ローラーブラケットを最後に刈込み高さ調節ノブで固定します。



ポイント

- 最初は刈高さを高い位置にセットし、日を置いて順次短く刈込むようにしてください。
- 芝生が75mm以上伸びている場合、あらかじめ芝生鋏等で75mm以下に刈込んでください。長すぎる芝生を刈ると、故障の恐れがあるばかりではなく、大切な芝生を傷める場合があります。また、刈跡がきれいに仕上がりません。



芝生高さ: 75mm以上　75mm以下　50mm

- 一回の刈込みで刈取る芝生の長さは10 ～ 20mmになるように、芝生に応じて刈高さを調節してください。
- 刈込み頻度は生育最盛期には週2 ～ 3回、それ以外の期間では月1 ～ 3回が目安です。

1-4. 燃料とエンジンオイルの点検・給油と各部の締付け点検をする

⚠ 警告

禁止

- 周辺は火気厳禁にしてください。また発火の恐れがあるので、エンジンが冷えてから給油・点検を行ってください。
- 燃料をこぼさないでください。もしこぼれた場合は完全に拭取ってください。
- 燃料は絶対に規定量以上入れないでください。入れすぎると作業中に漏れて発火する恐れがあります。

必ず守る

- 点検は本機を水平にし、安定した場所で必ずエンジンスイッチを“O”（OFF）の位置にしてエンジンを止め、点火プラグキャップを点火プラグより外して行ってください。
- 各部のネジ類の脱落やゆるみがないか、必ず確認してください。各部のボルト･ナット等に脱落やゆるみがあれば本機に異常振動が起こり、回転刃等の駆動部が外れ、重大な人身事故を招きます。

⚠ 注意

必ず守る

- **エンジンを始動する前に、エンジンオイルが適量入っているか確かめてください。**オイル不足は、焼付きなどの重大な損傷をエンジンに与えます。
  なお**ご購入時にはエンジンオイルが入っていません。エンジン始動前に必ずエンジンオイルを給油してください。**

燃料の点検・給油

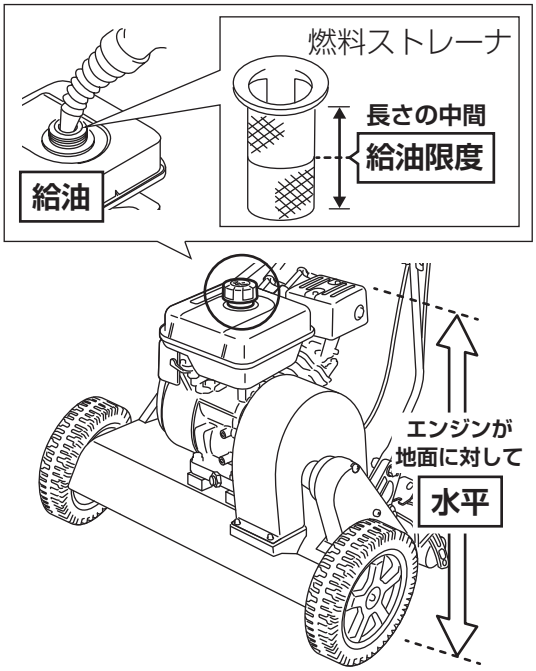
タンクキャップを外し、燃料があるか点検します。少ない場合は補給してください。

① **エンジンスイッチを“O”（OFF）の位置にし、**エンジンが水平になるように本機を置き、タンクキャップを取外します。

② 燃料ストレーナを介して燃料をゆっくりとタンクに注ぎ込み、燃料が給油限度（燃料ストレーナ長さの中間）に来たら給油を止めます。

燃料の規定量	1.6 ℓ

③ 燃料の補給後はタンクキャップを必ずしっかりと締めてください。



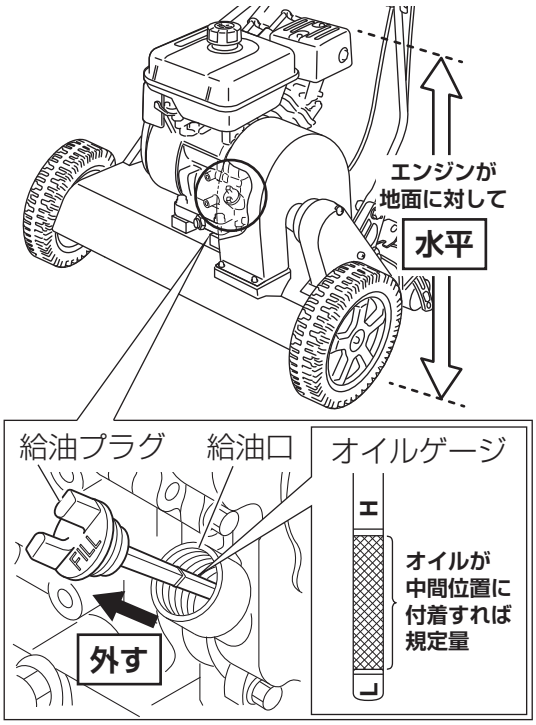
エンジンオイルの点検・給油

エンジンオイルが適量あるかを点検し、不足している場合は補給します。

① エンジンが水平になるように本機を置きます。
② 給油プラグを外し、オイルゲージに付着しているオイルを布等で拭取ります。
③ オイルゲージをねじ込まないように、給油プラグをもう一度給油口に差込み、再び外すことでオイルゲージに付着してくるオイル位置（オイル量）を見ます。

ゲージに付着してくるオイル位置	オイル量
“H” と “L” の中間位置	規定量
“L” の線より下	不　足
“H” の線より上	過　多

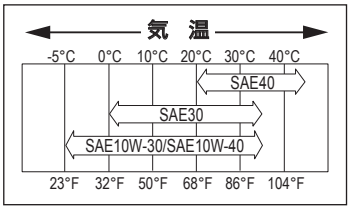
④ **オイル量不足の場合**、給油口から **4 サイクル用エンジンオイル**を**規定量（0.46 ℓ）**になるまで**ゆっくり注ぎ込み、オイル量過多の場合**は**オイルドレンよりオイルを抜き**（P.23 参照）、**規定量になるように調整**してください。



ポイント

- 推奨エンジンオイル：
  API サービス分類　SF、SG、SH、または SJ
- オイルの粘度：
  作業場所の気温に応じて粘度を選定してください。

気温に応じた粘度の目安



各部の締付けの点検

芝刈作業前には必ず各部のネジ類の脱落やゆるみがないかを確認し、脱落しているネジ、ナット、部品等があれば取付け、ゆるんでいる箇所があれば確実に締付けてください。

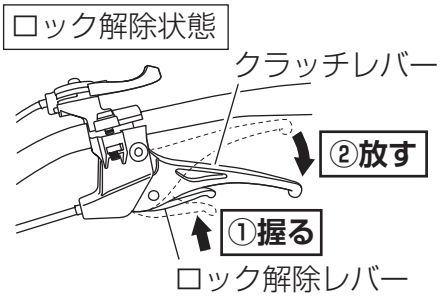
1-5. グラスキャッチャーを取付ける

取付方法は P.10「1-2. グラスキャッチャー（集草器）を組立てる」のポイントを参照してください。

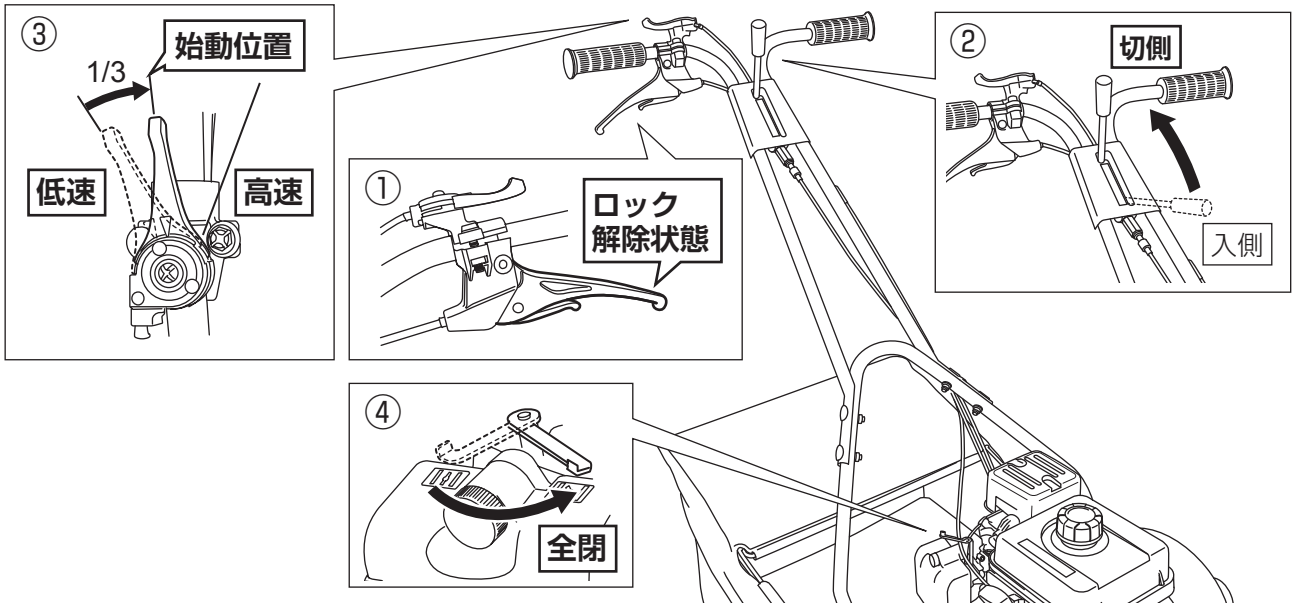
2. 芝刈作業

2-1. エンジンを始動する

⚠ 警告	
よく読む	● **エンジンの取扱いについては、別紙のエンジン取扱説明書を必ずお読みください。**
禁止	● 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒になる恐れがあります。
必ず守る	● エンジン始動時には必ずクラッチレバーのロックを解除してください。

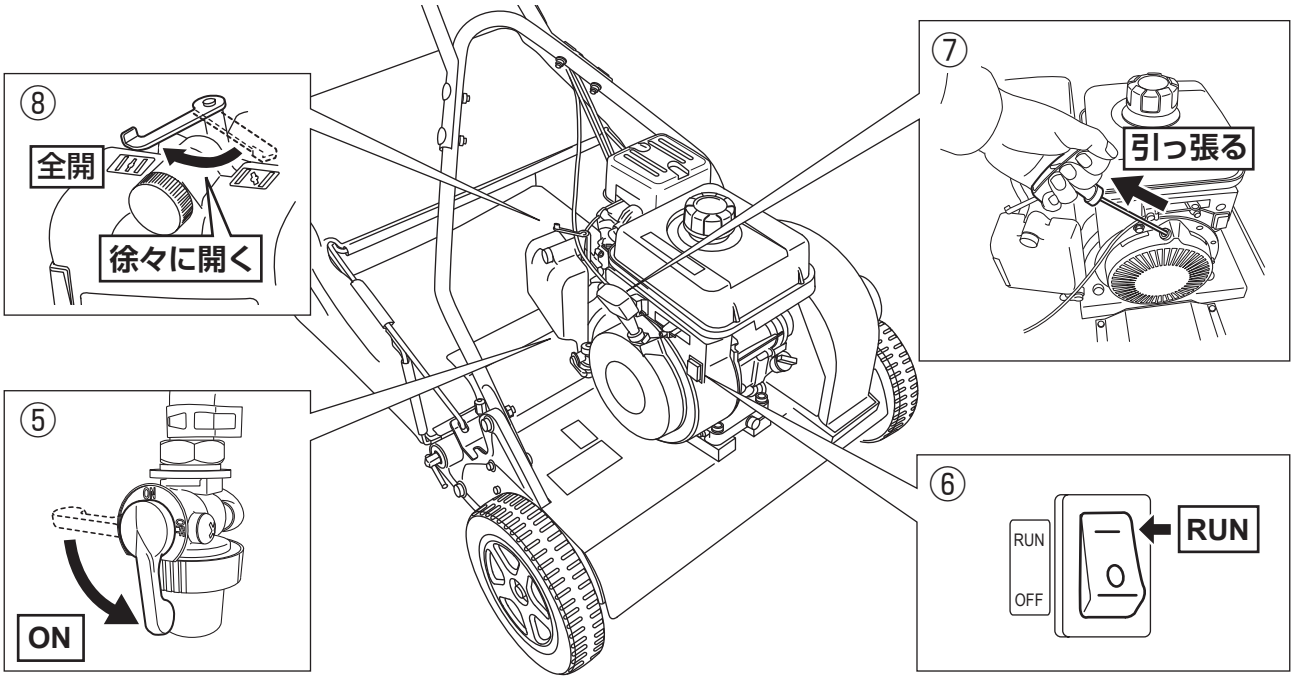


① クラッチレバーのロックを解除します。
② 自走レバーを “切” 側にします。
③ スロットルレバーを “低速” から “高速” の方向に、約 1/3 開いた位置にします。
④ チョークレバーを全閉の位置にします。



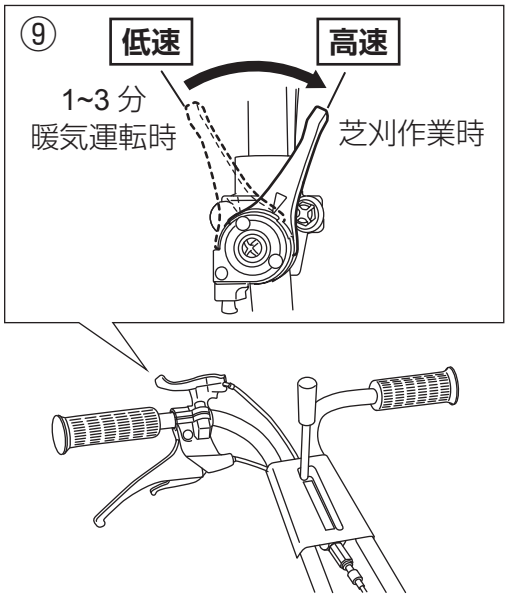
ポイント
● チョークレバーは、エンジンが暖かい時は “全開” もしくは “半開” 位置にします。

⑤燃料タップレバーを “ON” (開く) の位置にします。
⑥エンジンスイッチの “ー” 部を指で押して “RUN” 側にします。
⑦リコイルスタータグリップを握って軽く引き、重さを感じる位置から勢いよく引っ張ってください。
⑧エンジンが始動したら、チョークレバーを徐々に開きます。



ポイント
- チョークレバーはエンジンの調子をみながら徐々に開き、最後には必ず “全開” にしてください。寒い時またはエンジンの冷えている時に、急にチョークレバーを開くと、エンジンが停止する事があります。

⑨エンジン始動後、負荷をかけずにスロットルレバーを1 ～ 3分位 “低速” 位置で暖気運転し、芝刈作業をする時は “高速” 位置にしてください。



ポイント
- 画像で詳しくご覧になれます。

2-2. 芝刈りの操作・停止のしかた

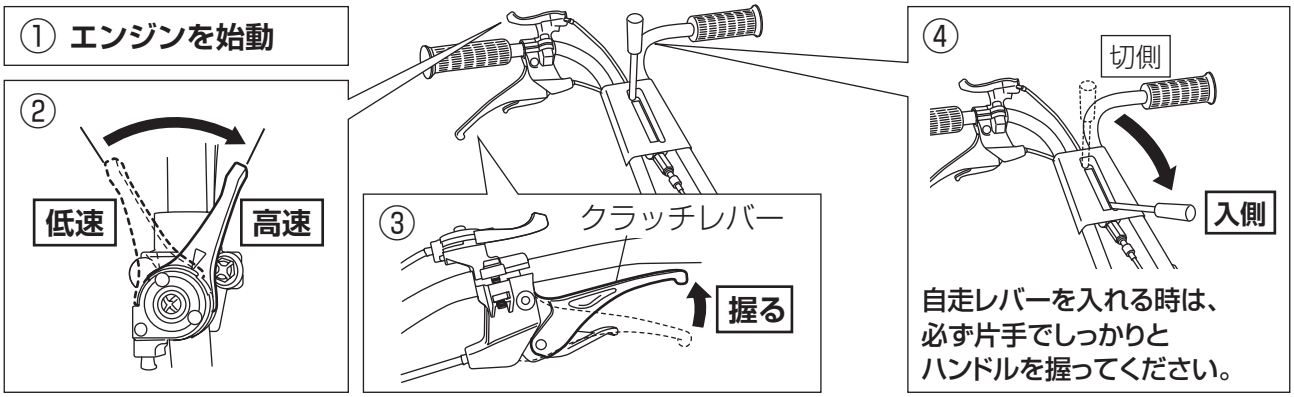
⚠ 警告

必ず守る

- 芝刈作業中は、クラッチレバーのロック解除レバーに常に指をかけ、緊急時にはいつでも解除できる状態で作業してください。
- 自走レバーを入れる時は、必ず片手でしっかりとハンドルを握ってください。

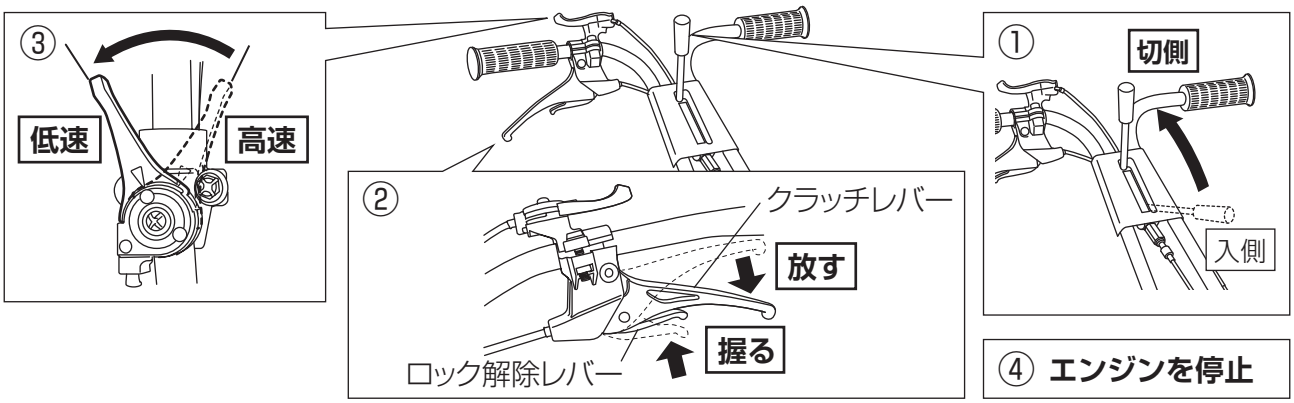
芝刈りを操作するには…

① エンジンを始動します。(P.16「2-1. エンジンを始動する」を参照)
② スロットルレバーを “高速” 位置にします。
③ クラッチレバーを矢印の方向にロックするまで引くと回転刃が回転します。
④ 自走レバーを “入” 側にすると走行します。



芝刈りを停止するには…

① 自走レバーを “切” 側に引き上げて、走行を停止させます。
② クラッチレバーのロック解除レバーを矢印の方向に引き、ロックを解除した後、クラッチレバーを放し、回転刃の回転を停止させます。
③ スロットルレバーを “低速” 位置にします。
④ エンジンを停止してください。(P.21「2-4. エンジンを停止する」を参照)



2-3. 芝刈開始

⚠ 警告

必ず守る

- 作業中は事故防止の為、取扱説明書の警告の項及び本機の危険、警告ラベルの指示に従ってください。
- 芝地に小石･木片等の異物がありますと、回転刃と受刃にはさまり、刃先を傷め、故障の原因となりますので、刈込み前に必ず取除いてください。
- 作業中に本機から離れる場合は、必ずエンジンを停止してください。

⚠ 注意

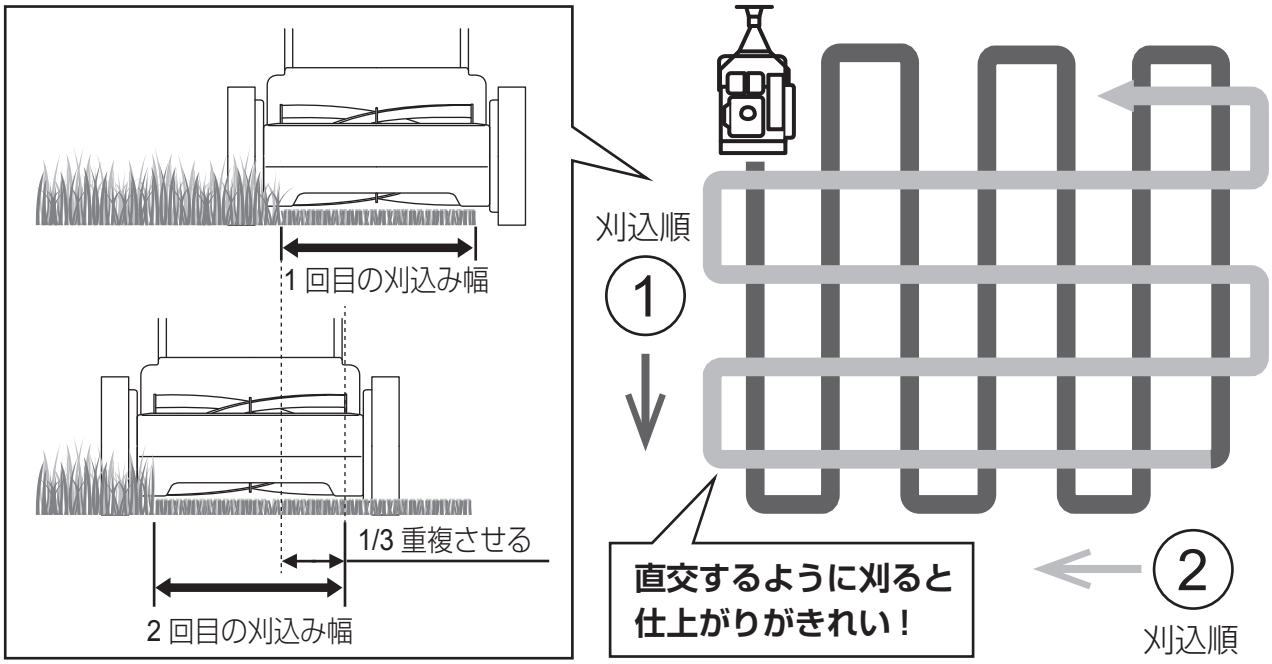
必ず守る

- 芝刈作業は、エンジン回転が充分に上昇してから行ってください。

エンジンを始動し、操作方法に従って芝刈作業を開始します。

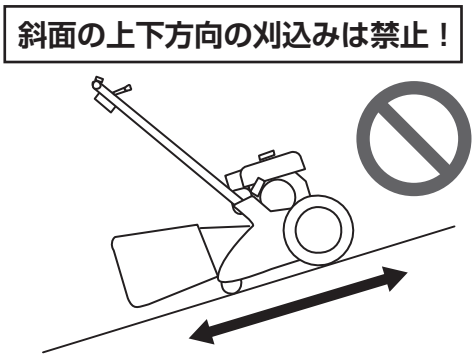
刈込み幅を全部使わないで、常に刈込み幅の約1/3程度重複して刈れば、平らにしかもきれいに刈込めます。

また一通り刈り終えてから今までと直交する方向で刈込めば、さらに刈跡がきれいに仕上がります。

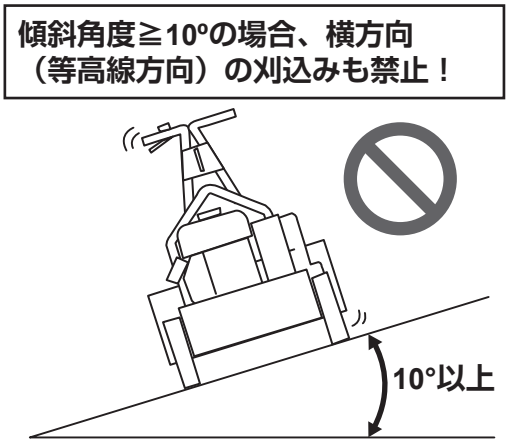


ポイント

- **斜面で芝刈作業をする時は…**
  斜面での作業は上下方向ではなく、必ず横方向（等高線方向）で行います。



ただし、横方向（等高線方向）で行う場合でも、本機が10度以上傾く場合は危険です。このような場合は絶対に作業をしないでください。

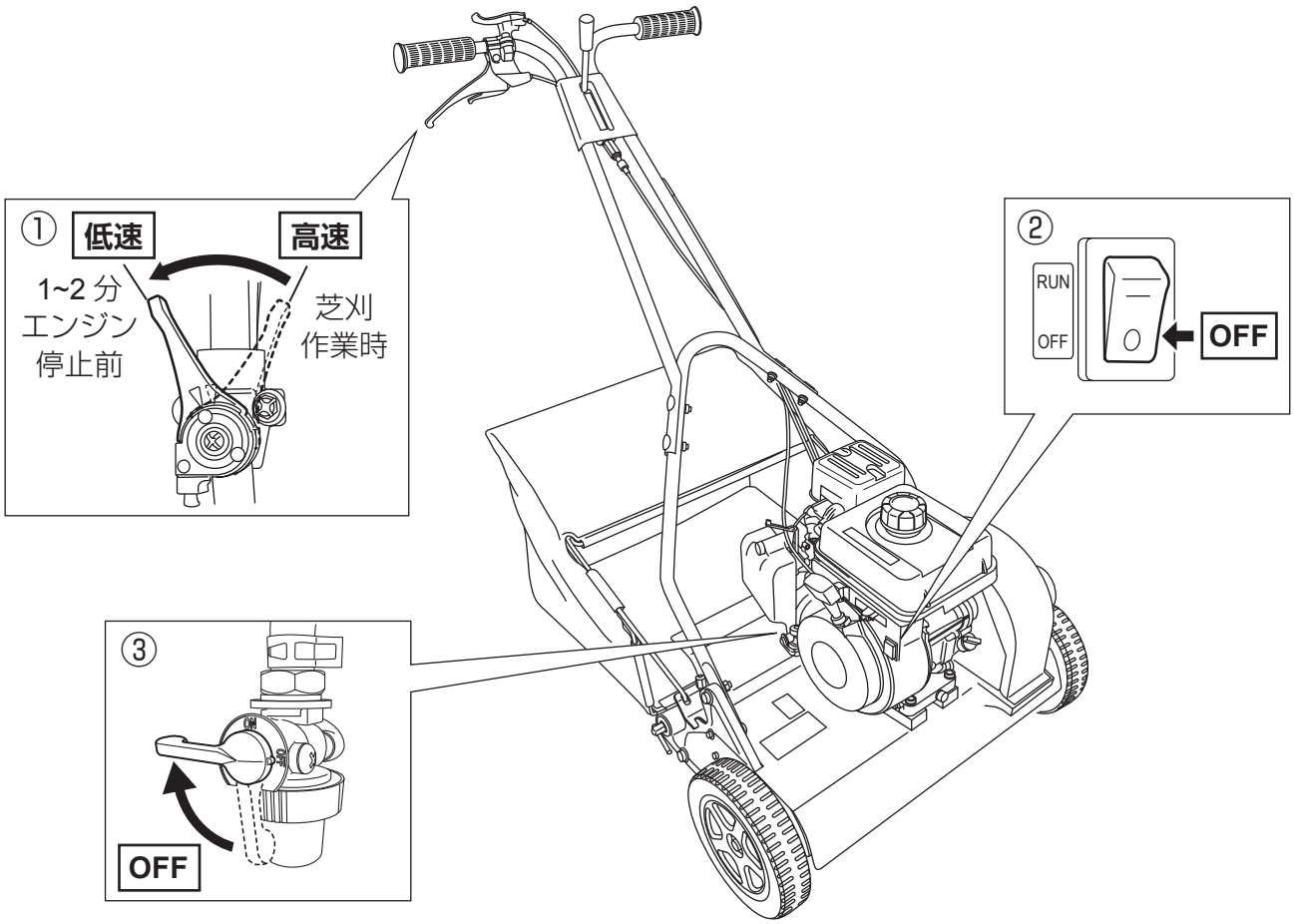


- 芝刈作業時にエンジン（回転刃）回転が下がって作業が出来ない場合があります。
  この場合は次の方法によって作業を行ってください。

- 刈取り重複巾を広くし、刈取り幅を狭くする。
- 刈込み高さを高刈りに調節する。

2-4. エンジンを停止する

① エンジンの停止は高速回転をさけ、まずスロットルレバーを “低速” 位置に戻し、1～2分位運転します。
② エンジンスイッチの “O” 部を指で押して “OFF” にします。
③ 燃料タップレバーを “OFF” (閉じる) の位置にします。



2-5. 芝刈作業後は

⚠ 注意	
刃物注意	● 回転刃に手や指が触れるとケガをする恐れがあります。必ず革手袋を着用し、取扱いには充分注意してください。

いつまでも最良の切れ味を保つために、ご使用後は本体、グラスキャッチャー、ハンドルをきれいに清掃し、油布で金属部の手入れをした後、日中よく乾燥させてください。

お手入れ方法と保管方法

1. お手入れ

⚠ 警告

必ず守る

各点検・整備・調整は…

- 事故防止のために必ず行ってください。
- 必ずエンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから抜いて行ってください。
- ケガ防止のため、保安帽・防塵メガネ・手袋・安全靴を必ず着用してください。

⚠ 注意

必ず守る

- 本機に異常を感じた時はただちに作業を中止し、修理が必要な場合は必ずお買い求めの販売店へ申し付けください。
- 取扱説明書の説明以外の分解修理及び改造は行わないでください。また必ずゴールデンスター純正部品、付属品を使用してください。

本機をいつまでも安全で快適にご使用いただくために定期点検を行いましょう。

		作業時間			
点検項目		作業毎	25時間	50時間	100時間
エンジンオイル	点検	○			
	交換			○ ※1	
エアクリーナ	点検	○			
	清掃		○ ※2※3		○ ※2※4
Vベルト・チェーン	点検		○		
	注油		○※5		
各部のボルト・ナット	点検	○			
点火プラグ	点検				○
	清掃				○
燃料タップ	清掃			○	
本機・エンジン	点検	○			
	清掃	○			

本書に指示がある場合は、エンジンを始動させて、その機能を確認してください。

※1 初回のみエンジン使用8時間後に交換し、その後定期交換してください。

※2 特にホコリの多い場所で使用した場合、より頻繁に行ってください。

※3 スポンジエレメントの清掃を行います。

※4 濾紙エレメントの清掃を行います。（P.24参照）

※5 チェーンに注油します。

1-1. エンジンオイルの交換

詳細はエンジン取扱説明書をお読みください

⚠ 警告	
必ず守る	● 熱いオイルで火傷を負う危険性があります。注意してください。
禁止	● 交換後のオイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられていますので、法令に従い適正に処理してください。なお不明な点は、お買い上げになった販売店にご相談ください。

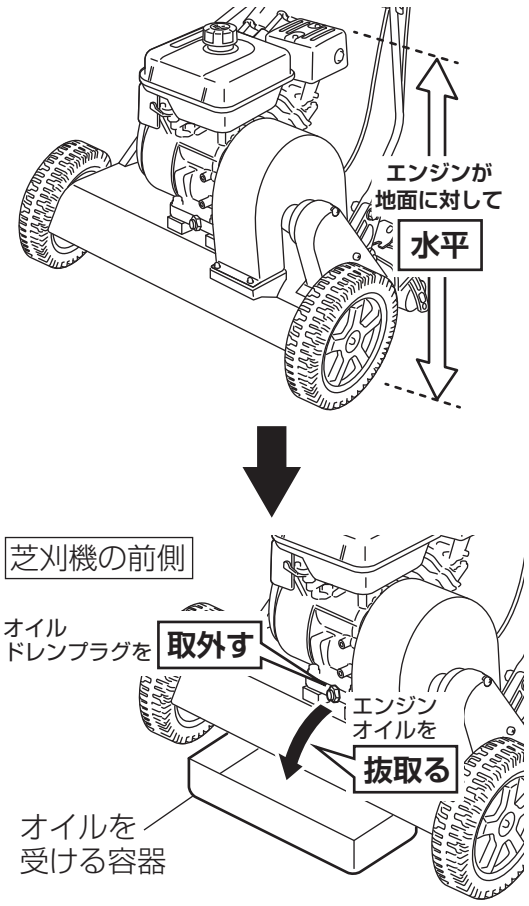
エンジンオイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。
交換時期、オイル容量を守りましょう。

点検交換時期

点検…作業毎
交換…初回のみエンジン使用8時間後に交換。その後運転50時間毎に定期交換。

交換のしかた

① エンジンが水平になるように本機を置き、“低速”状態で約1分間運転してエンジンオイルを温めます。
② エンジンを止めてから、オイルドレンプラグの下付近に適当な容器を用意し、オイルドレンプラグをゆるめて取外し、エンジンが温かい間にエンジンオイルを容器に抜取ります。
③ 完全にエンジンオイルが抜けたら、オイルドレンプラグを元の位置に取付け、給油プラグを給油口から取外し、新しいエンジンオイルを規定量（0.46ℓ）給油します。
④ 給油後はエンジンオイルの容量を点検し、最後に給油プラグを給油口に確実に締付けてください。



ポイント
- エンジンオイルの容量の点検・給油方法は、P.15「エンジンオイルの点検・給油」を参照してください

1-2. エアクリーナの点検・清掃

詳細はエンジン取扱説明書をお読みください

⚠ 警告

禁止

- エレメントの清掃の際には、通気性の良い、火のない場所で行ってください。
- ガソリン等の引火性の強い洗浄液は、エレメントの洗浄に使用しないでください。

⚠ 注意

必ず守る

- 清掃後のスポンジエレメント、濾紙エレメントにはオイルを付けないでください。
- エレメントの濾紙を傷付けないようにしてください。

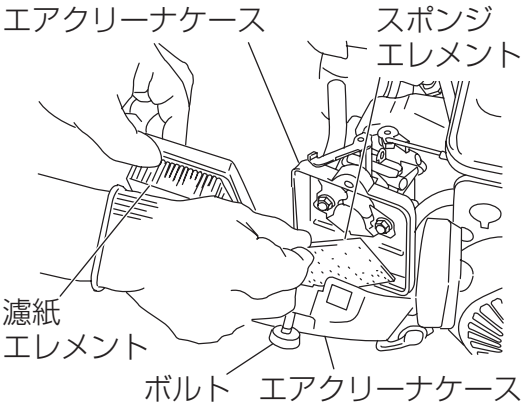
エアクリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので、定期的に清掃してください。

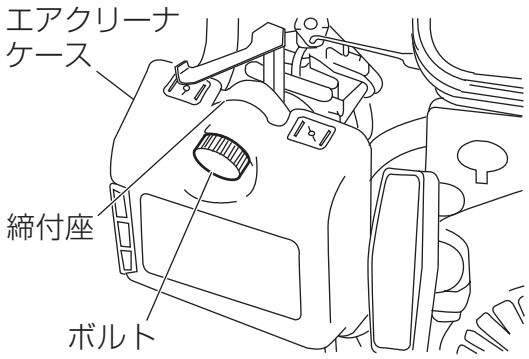
点検清掃時期

点検…作業毎
清掃…スポンジエレメントは25時間毎、濾紙エレメントは100時間毎。

清掃のしかた

① エアクリーナケースのボルトをゆるめ、エアクリーナケースを開け、スポンジエレメント、濾紙エレメントを取出します。
② スポンジエレメントを石鹸液で洗浄した後、水洗いをし、充分乾燥させてください。
③ 濾紙エレメントを軽く叩いて付着しているホコリを落とし、汚れがひどい場合はエレメントを新しいものに交換してください。
④ 清掃後の各エレメントはエアクリーナケースに正しく組付けてください。
⑤ ボルトを締付座に隙間がなくなるまでしっかりと締付けてください。





1-3. V ベルト・チェーンの点検・注油・交換

⚠ 警告	
刃物注意	● 鋭利な刃先に注意してください。
必ず守る	● 必ずエンジンスイッチを停止 “O” (OFF) 側にし、エンジンを停止させ、回転刃の回転が止まった後に点火プラグキャップを点火プラグより外してから作業を行ってください。

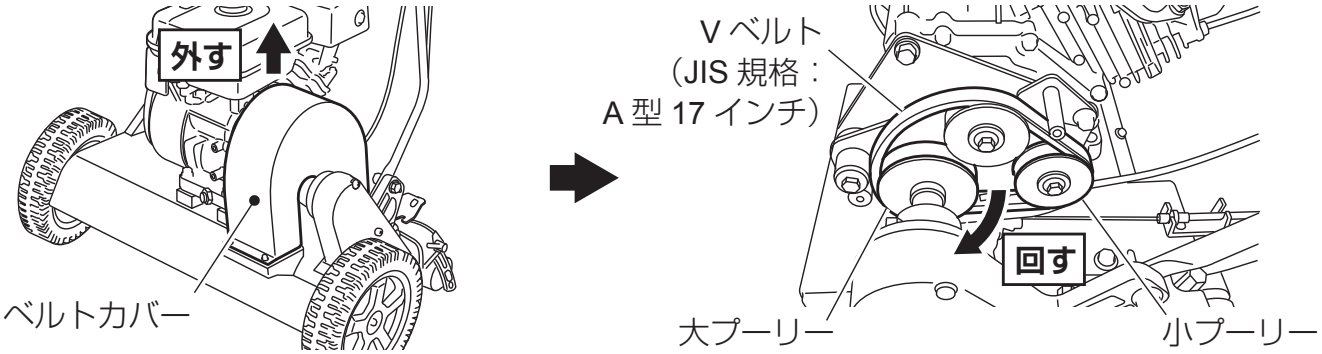
点検時期

点検…25 時間毎。

V ベルトの交換のしかた

クラッチレバーのロックを解除し、ベルトカバーを外した後、表面にヒビ・亀裂等が入って損傷したベルトを外し新しいベルトを取付けます。

新しいベルトをかける時は、まず小プーリーにベルトをかけ、次に大プーリーを回しながら大プーリーにベルトをかけていきます。

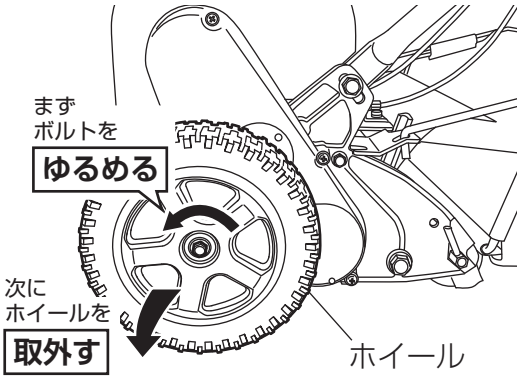


ポイント

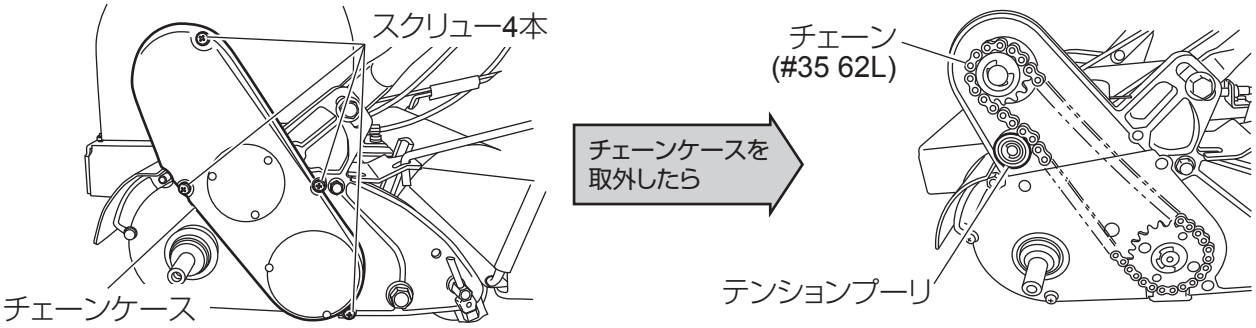
● ベルトは JIS 規格 V ベルト A 型 17 インチをご使用ください。

チェーンの注油・交換のしかた

① (本機ハンドル側から見て) 左側のホイールを取付けているボルトをゆるめ、ホイールを取外します。



② チェーンケースを取付けているスクリュー 4 本をゆるめてチェーンケースを外し、チェーン内側にグリースを適量塗布します。この時、チェーンが摩耗していれば、新しいチェーンと交換します。



ポイント
- グリースはリチュウム系極圧添加剤入り No.1 をご使用ください。
- チェーンは #35 62L をご使用ください。

③ チェーンのジョイント部分を外し、スプロケットからチェーンを外します。
④ 交換するチェーンをスプロケットに取付け、チェーンジョイントで両端をつないだ後、チェーン内側にグリースを塗布します。
⑤ チェーンケースをスクリュー 4 本で、ホイールをボルトで確実に固定します。

1-4. 点火プラグの清掃

詳細はエンジン取扱説明書をお読みください

⚠ 警告

禁止

- 点火プラグの清掃・調整はエンジンが冷えてから行ってください。

⚠ 注意

必ず守る

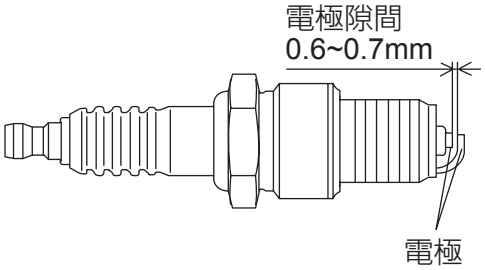
- 電極が汚れたり電極の隙間が不適当な状態では完全な火花が飛ばなくなり、エンジン回転が不均一になり、エンジン不調の原因となります。
- 点火プラグの取付けは、ネジ山をつぶすおそれがありますので、はじめは指で軽くねじ込み (5 ～ 6山)、次にプラグレンチで確実に締付けてください。
  点火プラグ締付けトルク 23N·m (2.3kgf·m)

点検清掃時期

点検清掃…運転100時間毎。点火プラグの清掃と電極隙間の調整を実施。

清掃のしかた

① 点火プラグキャップを点火プラグから外し、プラグレンチでエンジンから取外します。
② 次に点火プラグに付着したカーボン等をプラグクリーナ、またはワイヤーブラシ等で落とします。
③ 最後に電極隙間を0.6 ～ 0.7mm になるように調整します。
推奨点火プラグ：NGK　B6HS



1-5. 燃料タップの整備

詳細はエンジン取扱説明書をお読みください

⚠ 警告

禁止

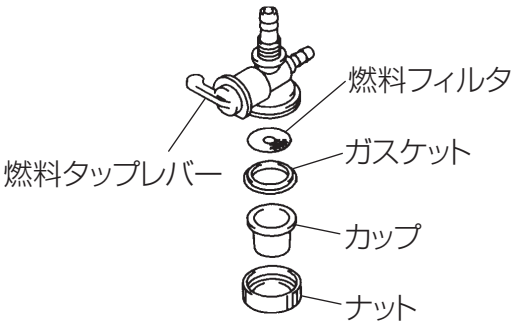
- 火気厳禁。

清掃時期

清掃…運転50時間毎。燃料タップ内の燃料フィルタを清掃してください。

清掃のしかた

① 燃料タップレバーを“OFF”（閉じる）の位置にし、ナットをゆるめ、燃料タップから取外します。
② カップ、ガスケット、燃料フィルタを燃料タップから取外し、洗浄してください。
③ 洗浄後、カップ、ガスケット、燃料フィルタを正しく組付け、最後にナットを締付けてください。



1-6. 芝刈機のお手入れ

⚠ 注意

必ず守る

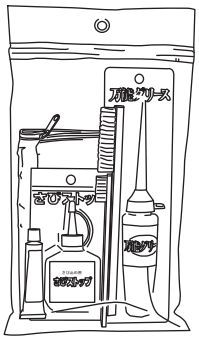
- 調整、お手入れ等の際は、ケガ防止の為に必ず革手袋を着用し、充分安全に注意して行ってください。
- お手入れの際はガソリン、シンナー、ベンジンは使用しないでください。

いつまでも最良の切れ味を保つために、ご使用後は本体、グラスキャッチャー、ハンドルをきれいに清掃し、油布で金属部の手入れをした後、日中よく乾燥させてください。

ポイント

- 芝刈機お手入れセット
  No.538503
  芝刈機のお手入れに欠かせない商品が一袋にまとまっています。

  セット明細
  - グリス　- さび止め　- ブラシ（大・小）
  - ウエス　- コンパウンド　- ファスナー付手さげバック



※ご用命の際は本機をご購入の販売店、又は貼付の QR コードをお使いください。

2. 長期保管について

⚠ 警告

必ず守る

- 燃料は非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- 燃料を抜く時は換気のよい場所で行い、火気を絶対に近づけないでください。
- 燃料はこぼさないように抜いてください。
- 油脂類の廃液は法令で適切な処理を行なうことが義務づけられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点は、お買い上げになった販売店にご相談ください。

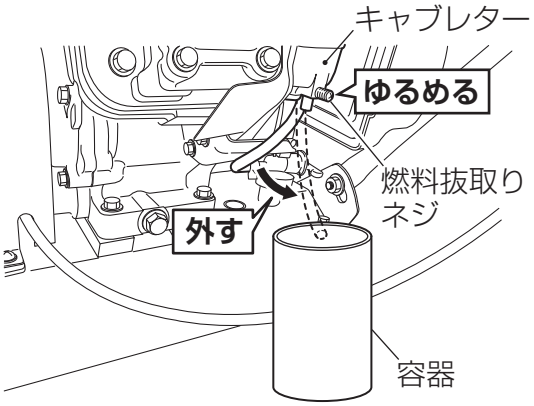
本機を30日以上保管するときは必ず燃料タンク、キャブレターから燃料を抜取ってください。

2-1. 長期保管のためのお手入れ方法

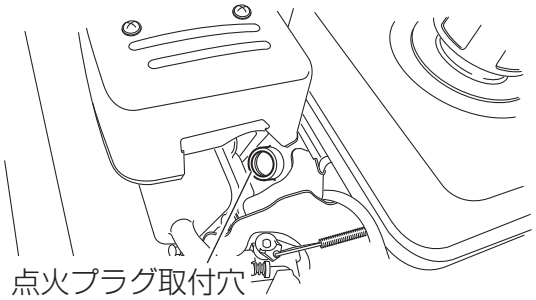
① エンジンをアイドリング運転で燃料を使い切り、エンジンスイッチの“O”（OFF）を押します。
② 点火プラグキャップを点火プラグから外します。
③ 燃料を抜取ります。

ポイント

- **燃料の抜取りかた**
  1) 燃料タンク内の燃料をポンプ等で適当な容器に抜取ります。
  2) 次にキャブレターの下に適当な容器を置き、キャブレターの燃料抜取りネジをゆるめて燃料を抜取ります。



④ 燃料が抜き終われば燃料抜取りネジはしっかり締付けます。
⑤ リコイルスタータグリップを2～3回引きます。
⑥ 点火プラグを外し、取付穴からエンジンオイルを約1ml注入し、リコイルスタータグリップを静かに2～3回引いた後、点火プラグを取付けます。
⑦ リコイルスタータグリップを引いて、圧縮のかかった状態で止めてください。
　＊ エンジン内の錆を防止のため。
⑧ 点火プラグキャップを点火プラグに確実に取付けてください。



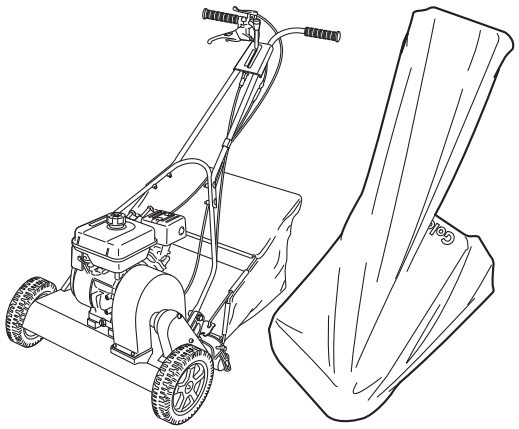
お手入れ方法と保管方法

その後、エアクリーナの清掃、各部のボルト・ナット・部品など点検・交換を行い、さびやすい部品にグリスかエンジンオイルを塗布した後、カバーをし、子供の手の届かない鍵のかかる場所に保管してください。

ポイント

- エンジン式芝刈機用カバー（中）
  No.538507
  大切な芝刈機を雨や日差しから保護するカバーです。

※ご用命の際は本機をご購入の販売店、
又は貼付の QR コードをお使いください。



本機に異常があれば、下表より原因を探り適切な対策を施してください。

不調の状況		予想される原因	対　策
エンジンが始動しないまたは出力が低い		エンジンスイッチが RUN（━）側になっていない	エンジンスイッチを RUN（━）側にする
	圧縮が不充分	ピストン、シリンダ、ピストンリングの磨耗、ヘッドガスケットの損傷	販売店にお申し付けください
		バルブの不良	
		点火プラグのゆるみ	増し締め
		シリンダヘッドボルトのゆるみ	
	燃焼室に燃料が供給されない（点火プラグの電極が乾いている）	燃料不足	タンクに燃料を補給する
		チョークレバーがチョークの位置になっていない	チョークレバーを|⚡|（チョーク）の位置にする
		タンクキャップの空気抜き穴の目詰り	清掃する
		キャブレターの不良	販売店にお申し付けください
	燃料による点火プラグの汚れ（点火プラグの電極が濡れている）	燃料の吸い過ぎ	点火プラグを清掃する
		エアクリーナの目詰まり	清掃する
		キャブレターの不良	販売店にお申し付けください
		燃料の種類の間違い	新しい燃料と交換する
		燃料に水が混入	
	点火プラグから火花が出ない、または弱い	点火プラグの不良	新しい点火プラグと交換する
		点火コイルの不良	販売店にお申し付けください
エンジンの出力不足及び回転不安定	エンジンのオーバーヒート	冷却系統の通路がゴミで目詰まり	清掃する
		エンジンオイルの不足	オイルを補給または交換する
		燃焼室のカーボン堆積	販売店にお申し付けください
		エンジン周辺の換気不充分	エンジン周囲を点検・清掃する
	エンジン回転数が上がらない	ガバナの不良	販売店にお申し付けください
		エアクリーナの目詰り	清掃する
本機が異常振動する		回転刃が破損または曲がっている	交換
		エンジンを取付けているボルトがゆるんでいる	ボルトを確実に締付ける
回転刃が回転しない		ベルトが外れている	ベルトを掛け直してください
		クラッチケーブルの調整不良	クラッチケーブルを調整する（P.33「1-2. クラッチケーブルの調整」を参照）
本機が走行しない、または走行クラッチが切れない		自走ケーブルの調整不良	自走ケーブルを調整する（P.34「1-3. 自走ケーブルの調整」を参照）
芝生が綺麗に刈れない、または芝生が回転刃に噛込む		芝生が伸びすぎている	刈高さを高くする
		回転刃と受刃との間に隙間がある	刃調整をする（P.32「1-1. 回転刃と受刃の調整」を参照）

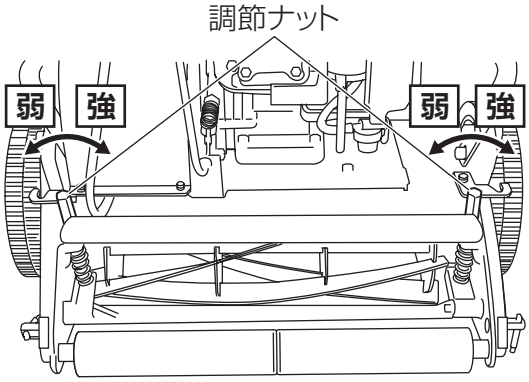
※表は簡単なトラブルシューティングしか記載しておりませんので、わからない点や複雑な異常はお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

1. 各種調整方法について

1-1. 回転刃と受刃の調整

⚠ 警告	
刃物注意	● 回転刃に手や指が触れるとケガをする恐れがあります。必ず革手袋を着用し、取扱いには充分注意してください。
必ず守る	● 回転刃と受刃の調整を行う時は、必ずエンジンを停止させ、点火プラグキャップを点火プラグから外し、燃料タップレバーを閉じてください。 ● ケガ防止の為、手袋・安全靴・ヘルメットを着用してください。

調整ナットを締める（時計廻り方向）と回転刃と受刃のすり合わせが強くなり、ゆるめる（反時計廻り方向）とすり合わせが弱くなります。



すり合わせの調整は、必ず左右平均にわずかにすり合う程度とし、すり合わせ音がまったく出ない時は回転刃と受刃の間に隙間があり、芝生が切れません。

また、すり合わせが強すぎると刃物の寿命を短くしますので、特に注意してください。

正しい調整とは多少の接触音を出し、回転刃と受刃との間に新聞紙を入れ、回転刃を手でまわして切れる程度です。

1-2. クラッチケーブルの調整

出荷時には調整されています

⚠ 警告

必ず守る

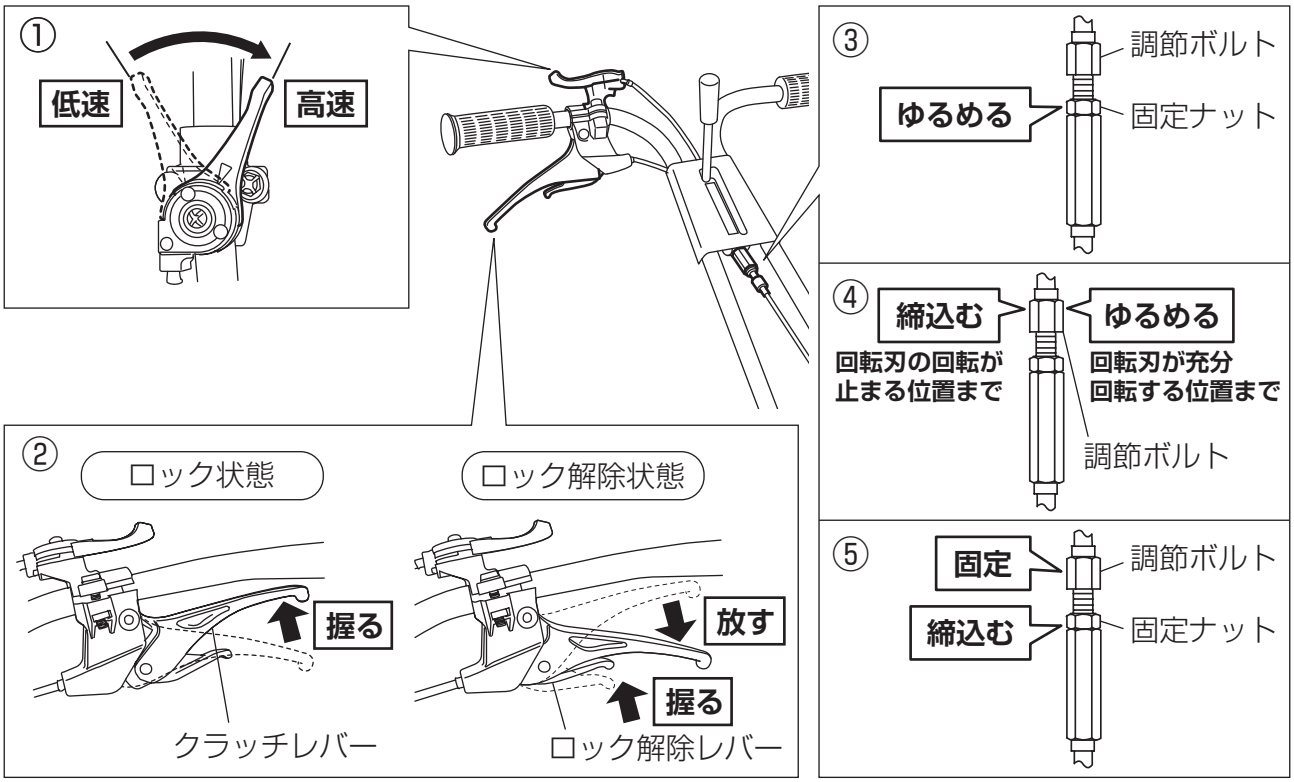
- クラッチケーブルの調整が不充分ですと、回転刃が不意に回転する場合があり大変危険です。調整は必ず自走レバーを “切” 側にしてから行ってください。

エンジンを始動しているとき、クラッチレバーを握っていないのに回転刃が回転している場合の調整のしかた

① エンジンを始動し、スロットルレバーを “高速” 側に回します。
② クラッチレバーの “ロックを解除” します。
③ クラッチケーブルのアジャスターの固定ナットをゆるめます。
④ アジャスターの調節ボルトを回転刃の回転が止まる位置まで締め込んでいきます。
⑤ 固定ナットを締め、調節ボルトを固定します。

エンジンが回転しているとき、クラッチレバーを握っているのに回転刃が回転しない、もしくは芝を刈る時に回転が不充分の場合

① エンジンを始動し、スロットルレバーを “高速” 側に回します。
② クラッチレバーを握って “ロック” します。
③ クラッチケーブルのアジャスターの固定ナットをゆるめます。
④ アジャスターの調節ボルトを回転刃が充分回転する位置までゆるめていきます。
⑤ 固定ナットを締め、調節ボルトを固定します。



1-3. 自走ケーブルの調整

出荷時には調整されています

⚠ 警告

必ず守る

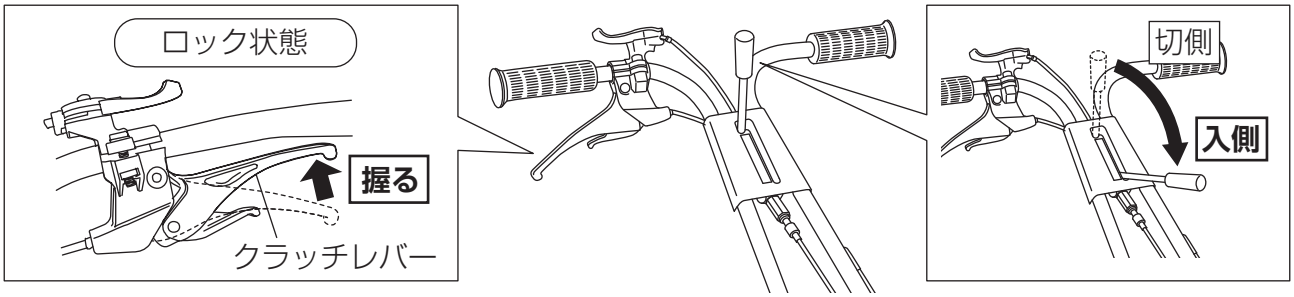
- 自走ケーブルの調整が不充分ですと、本機が不意に走行する場合があり危険です。また、緊急時に本機を停止出来ない場合があり危険です。

作業中、自走レバーを“入”側にしても、本機が走行しない場合

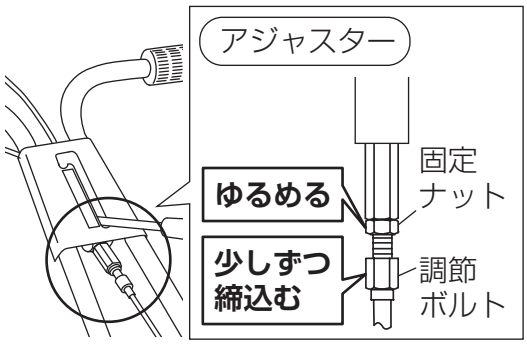
（クラッチレバーが入っていないと自走レバーを操作しても本機は自走しません）

① エンジンを停止します。（P.21「2-4. エンジンを停止する」を参照）

② クラッチレバーを握ってロックし、自走レバーを“入”側にします。

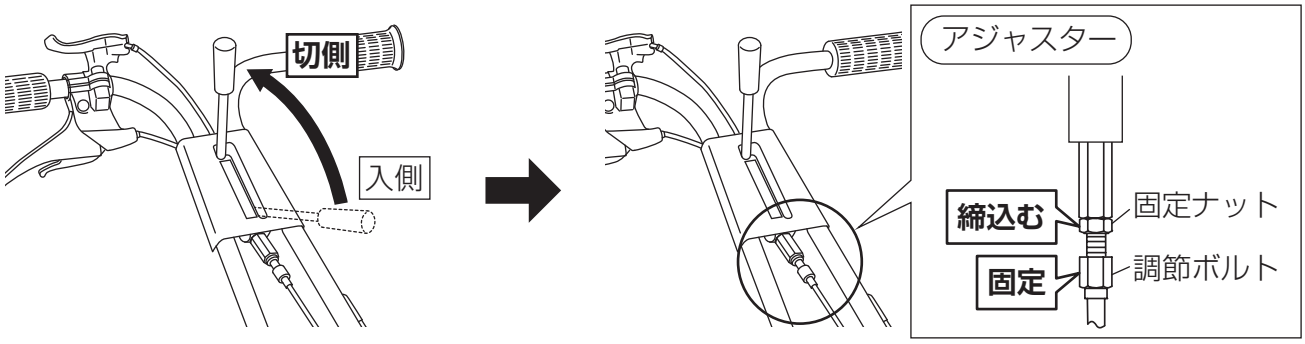


③ 自走ケーブルについているアジャスターの固定ナットをゆるめ、アジャスターの調節ボルトを少しずつ締込み、調整します。



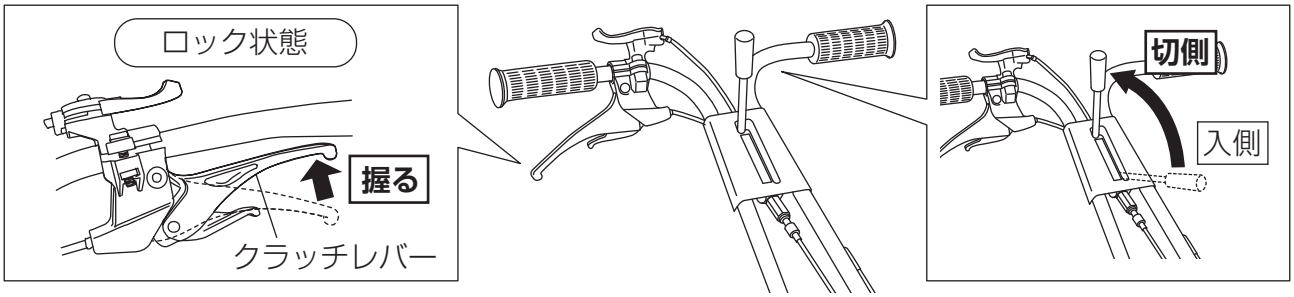
④ 本機を後方に引いていき、ある程度引いたところで前ホイールがロックして回らなくなることを確認します。

⑤ 次に自走レバーを“切”側に切換え、本機を後方に引いていき、前ホイールが常にフリーで回転する事を確認したら、固定ナットを締め、調節ボルトを固定します。

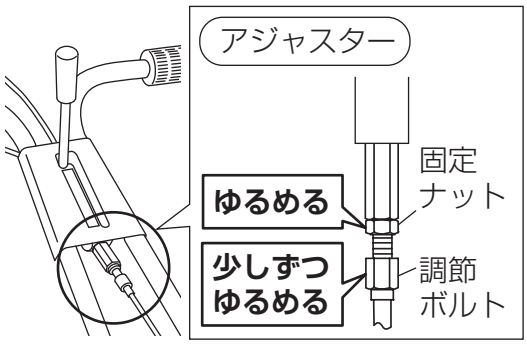


作業中、自走レバーを “切” 側にしても、本機の走行が停止しない場合

① 直ちにクラッチレバーのロックを解除します。
② エンジンを停止します。(P.21「2-4. エンジンを停止する」を参照)
③ クラッチレバーを握ってロックし、自走レバーを “切” 側にします。

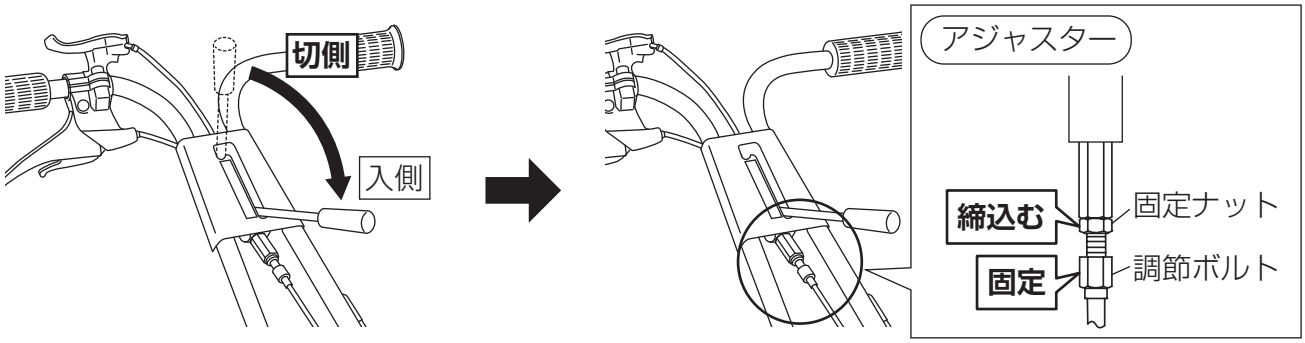


④ 自走ケーブルについているアジャスターの固定ナットをゆるめ、アジャスターの調節ボルトを少しずつゆるめ、調整します。



⑤ 本機を後方に引いていき、前ホイールが常にフリーで回転する事を確認します。

⑥ 自走レバーを “入” 側に切換え、本機を後方に引き、ある程度引いたところで前ホイールがロックして回らなくなることを確認したら、固定ナットを締め、調節ボルトを固定します。



製造番号	

部品ご入用、故障の場合、その他取扱い上ご不明な点があった場合には、ご遠慮なく
お買い上げの販売店にお問い合わせください。

本機を末長くご愛用いただきますようよろしくお願いいたします。

本　　社
兵庫県小野市本町10番地　〒675-1372
TEL（0794）62-2391㈹　FAX（0794）63-5211

東京支店
東京都中央区日本橋小伝馬町8番3号　〒103-0001
TEL（03）3664-8811㈹　FAX（03）3664-8860

九州支店
佐賀県鳥栖市養父町473番地2　〒841-0005
TEL（0942）85-9277　FAX（0942）84-2700

新潟·三条出張所
新潟県三条市神明町2番1号　〒955-0063
TEL（0256）32-9971　FAX（0256）32-9671

KINBOSHI
Corporation

園芸機器総合メーカー
キンボシ株式会社

2067Bi-1410